

## 第8回文化ボランティアフォーラムを終えて

今回は、「文化ボランティアコーディネーターの必要性と担うべき役割」について考えることといたしました。

県内の各地域で活躍する文化ボランティアは、いろいろな悩みや課題を抱えながら活動していますが、なかでも会員の高齢化や世代交代の難しさなど避けて通れない現状は深刻です。この難題を解く鍵として注目されているのがコーディネーターの存在とボランティアマネジメントのあり方で、これまでのフォーラムでは取り上げられてないテーマです。

今回は講師に文化ボランティアコーディネーターとしての第一人者である柴田英紀氏と、文化庁から文化ボランティア専門官の三木忠一氏をお招きしました。

三木氏からは、国における「文化ボランティアへ期待すること」を、柴田氏からは、「ボランティアコーディネーターの必要性と担うべき役割」についての講演をいただきました。

午後のとことん討論会では、6～8人が一つのテーブルを囲み、10班に分かれて所属団体の現状把握（Keep）から問題点（Problem）を洗い出し、わいわいと討論するなかで問題解決の糸口（Try）を見出すKPT分析という手法を使って盛り上がりました。

コーディネーターからは「かなり良いところまで議論が深まった」との評価をいただいたところです。

その結果は議事録の本文に掲げるとおりですが、「何らかのヒントでも得たい」とする参加者の想いに届いたかどうか、引き続きこのような機会を設ける必要性を感じました。

最後にフォーラムへ参加いただいた皆さんや、このフォーラム開催に関わっていただいた方々へ、心より感謝申し上げます。誠に有難うございました。

NPO 法人文化ボランティアとびうめの会  
代表理事 田中正治